

平成 25 年度第 7 回社会福祉審議会議事録

- 日時：平成 26 年 1 月 28 日（火）午後 6 時 30 分から午後 7 時 30 分
- 場所：大和市保健福祉センター 5 階 501 会議室
- 参加：

〔出席委員〕 12 名

小野会長、山岸会長代理、町田委員、高橋委員、金子委員、竹村委員、北林委員、
桐原委員、和田委員、前川委員、阿部委員、柴田委員
(欠席委員) 大谷委員、松井委員、鈴木委員

【次第】

1. 開 会
2. 議 題
 - (1) 市民意見公募結果について
 - (2) 成果指標について
 - (3) 答申（案）について
3. その他
 - (1) 今後のスケジュールについて
 - ・ 第 4 期地域福祉計画の今後の作業について
 - ・ 審議会のスケジュールについて
 - (2) その他
4. 閉 会

【会議資料】 第 7 回社会福祉審議会 次第
委員名簿

「第 4 期地域福祉計画素案」に対する市民意見公募結果について (資料 1)
第 4 期地域福祉計画の成果指標について (資料 2)
大和市地域福祉計画素案について（答申） (資料 3)

以下、要旨記録

1. 開 会

事務局 平成 25 年度第 7 回社会福祉審議会を開催させていただきます。

2. 議 題

(1) 市民意見公募結果について

会 長 本日の資料とは別に、「前回の素案と第 3 期の計画をお持ちください」と案内があったが、皆さん大丈夫でしょうか。

それでは、議題 1 市民意見公募結果について事務局に説明をお願いします。

事務局（資料 1 説明）…意見概要と地域福祉計画への反映について（詳細省略）

事務局 平成 25 年 12 月 1 日より平成 26 年 1 月 8 日まで第 4 期地域福祉計画素案に対する市民意見公募の募集をした結果 2 名の方から意見をいただいた。表の 1 が一人目の方、表の 2～22 までが二人目の方の意見となっている。

市民意見公募でいただいた意見を反映して、素案の中で追記をしていく部分を紹介する。

- ・意見 15 カフェふらっとは、障がい者が気軽に集える地域の居場所として機能しており、地域福祉の視点であるので追記します。
- ・意見 17 虐待防止センターは、障がい者虐待の通報（連絡・窓口）を主な目的とした窓口なので追記します。
- ・意見 17 「なんでも・そうだん・やまと」は対象となっているのでわかりやすい表現に改める。
- ・意見 17 ピア相談は主として当事者団体による活動であるため、「地域による支援」として個別目標 2 に記載していたが「行政による支援」の側面もあるので個別目標 6 に再掲します。
- ・意見 21 高齢者のショートステイ（短期入所）は、対象になるので追記します。
- ・意見 21 短期入所費と短期入所給付費は同じ内容なので、表記の統一を検討します。

事務局 市民意見公募結果の今後の流れは、本日ご意見をいただいた後、ホームページで回答を予定している。また、「追記します」「再掲します」の表現については、今後の作業の中で素案の訂正をしていきたい。

会長 ありがとうございます。ただいまの説明に意見、質問はあるか。

委員 意見の概要というのは、事務局でまとめているのでどのような意図によって意見を出されているのかわからないが、質問に対しての回答が一致していない部分がけっこうあるように思われる。例えば、意見 1「市民の意見が十分に反映されていないのではないか」の質問に対して、「反映されている」とか「反映されていない」ではなく、「本計画を策定してまいりました」できっているが、まずは質問に答えて、それに対してどういうことだと書くべきで、スペースの関係もあるのかもしれないが、少し形式張った回答になっているように感じる。これがホームページに載るのであれば、質問者の意図を汲んだ回答の仕方をした方が良い。

事務局 意見の概要は、意見の内容をまとめた箇条書きの形で書いている。それに対しての事務局の意見は、なるべくオウム返しの回答を避けて結論を書く表記にしたが、回答する際には更に注意をして食い違いがないような表現に努めたい。

会長 どこまでやれば意見が十分反映されたと言えるのか、回答を書くのは、非常に難しい。

委員 質問の内容が反映されているのか反映されていないのかの部分もニュアンスがわからない。

事務局 意見 1 点目の件に関しては、前回の 3 期の計画は、審議会で議論をしたのではなく、策定委員会を設けて意見をいただいて作ったという経緯がある。今回は策定委員会がないので、こういった市民の意見が反映されていないのではないか、と言われたのだと思う。我々としては、今回は、策定委員会に代わるものとして、アンケートやパブリックコメントでご意見をいただき、社会福祉審議会の中で白紙の状態から議論していただき、作りあげているということでご理解いただきたいという趣旨である。

委員 そうすると、例えば「市民の皆様方のアンケートを取りながらこういう形に進めて参りました」等という言葉が入ると違ってくるのかと思う。これだけではなく、意見 1 すぐ下にある「羅列でしかないのではないか」という意見に「新たな事業に取り組んでまいります」とあるが、

何が新事業なのかわかるような書き方をすると必要があると感じた。

事務局 繰り返しになりますが、質問者の意図を汲んだ形で食い違いがないように再度言葉遣いを加筆訂正してホームページに掲載したい。

会 長 他にないようでしたら、議題 2 に進む。事務局より説明をお願いします。

(2) 成果指標について

事務局 資料 2 の「第 4 期地域福祉計画の成果指標について」は事務局で成果指標を一覧にしたものである。これは前回素案の審議をいただいた後、素案の進捗がわかるような目指す成果や主な指標について記載したものである。

事務局 (資料 2 説明) …詳細省略

各々、個別目標毎に中間目標値、また、最終年度の平成 30 年度の目標値を事務局で考えて記載している。皆さんのご意見をいただければと思う。

会 長 事務局より成果指標について説明があったが、質問や意見があればお願いします。

委 員 個別目標 8「地域で暮らしやすい在宅サービスを提供します」は個別目標の中でも取り組まれていると思うが、主な指標では「生活保護受給世帯のうち、働ける世帯の割合」となっている。どうも地域福祉の観点では、在宅サービスと働ける世帯の割合が増えるというのは一般の感覚では結びつかないような気がする。他には移送サービス、短期入所、医療の充実等というのがあるが・・・。

事務局 素案の中では 31 頁～32 頁にかけ、個別目標 8「地域で暮らしやすい在宅サービスを提供します」としている。(3) 主な取り組みに関しては、確かに生活保護以外にも色々な事業がある。ただ、取組例に各事業内容や事業名があり、在宅サービスに関する最も適切な指標の設定として事務局として担当課と調整をしているが、主な事業に関して目標設定しづらいという事業もある。そのような中で P32 の最後の○「就労支援も含めた総合的な自立支援を行います」のところで目標設定をさせてもらっている。

ただ、ご指摘はごもっともですので、今後、年度の中で進行管理をし、皆様に進捗度合いを確認してもらう機会に、目標設定が難しい事業の活動指標を提示することで、個別目標 8 がどの程度進捗したか確認・協議する材料にしてもらいたい。

委 員 個別目標 4 は、私が担当しているところなので少し気になったのだが、主な指標が「市と要援護者名簿を共有しているところの割合」とあり、この目標値が平成 28 年で 74%、平成 30 年で 78%だと低いと感じる。100%でもよいのではないか。100%までいかないでも、今、自治会では 100%を目指して一生懸命やっている。70%だと今とあまり変わらないので、できれば目標値が高い方が良いと感じるので検討してもらえればと思う。

事務局 この個別目標 8 の「市と要援護者名簿を共有している自治会の割合」については、総合計画とも関係しているところもあるので、そちらと調整しながら検討したい。

委 員 数値の中間目標値や目標値には根拠があるのだろうが、数字だけみると何が根拠で出ているのかわからないので根拠をお示しいただけるとありがたい。

事務局 個別目標 1 (1) 介護予防に関するところで、実績が 13 回でその目標値の根拠は、今後、高齢者数の増加に伴い介護予防の必要性が高くなるので、講師の確保等を行いながら年に 1 回ずつ

開催数を増やしていきたいと考えている。

(2) 車いすバスケット体験講座実施学校数については、現在 8 校実施しているが、学校側の需要が非常に高いので、財源の関係もあるが、関係機関と協議をしながら平成 28 年 11 校、平成 30 年 13 校に増やしていきたいと思っている。

個別目標 2 (3) 介護予防サポーター養成講座受講者数の実績値は 645 人であり、過去 5 年間、受講者数の増加の平均値が 130 人／年だったので、今後も 130 人ずつ増やした目標値にしている。

(4) こころサポーター養成講座受講者数に関しては、毎年度の伸び率 40 人ということで、各年度に掛け合わせる形の目標値を設定している。

(5) ファミリーサポートセンター支援会員数の理由は、地域における相互援助活動が活発に行われるよう支援会員増を目指していくため、年度あたり 8 人程度の増員を計画している。

(7) 子育て応援ガイド配架箇所数は、現在 51 ヶ所だが、今後、民生・児童委員が発行している子育て応援ガイドという冊子をまだ配架ができていない 35 ヶ所の小児科への配架を予定し、中間目標値を 60 ヶ所、目標値を 70 ヶ所としている。

基本目標 2 (1) 地域の見守りと安心できるまちづくりに関する協定は、現在、平塚信用金庫や郵便局等、6 事業所と提携しており、平成 28 年度には 7 事業所、平成 30 年度には 8 事業所を目指して事業者を増やしていきたい。

(2) 特定健康診査受診者への訪問指導件数は、特定健診の受診後の健診結果を階層化し保健指導を実施しており、現在 281 件だが、今後、特定健康診査で習慣改善が必要な方が増えるだろうということで、平成 28 年度は 500 件、平成 30 年度には 600 件と訪問件数を増やしていきたい。

(3) 乳児家庭全戸訪問事業による訪問率に関して、概ね 4 ヶ月までの乳児家庭に対しての育児支援を目的に「こんにちは赤ちゃん事業」で訪問している。現在、94,5%という実績値であるが、訪問率を高めることが孤立した子育て世帯の把握や応援に繋がると考え、平成 28 年度は 96,0%、平成 30 年度には 98,0%と目標値を設定した。

(4) 地域包括支援センターでの相談件数に関して、包括では総合相談で保健師等が専門的な相談をしており、現在 39,165 件であるが、今後の大和市の高齢者人口の伸び率を勘案し、平成 28 年度は 45,319 件、平成 30 年度には 46,696 件と目標値を設定した。

(6) 要保護児童対策地域協議会への参加機関数について、現在、保護が必要な家庭に対する連絡協議会があり、その参加機関数は 15 機関あるが、今後、機関数を増やしていくことで支援または保護が必要な家庭への体制作りを整えていきたいという目的で、平成 28 年度は 18 機関、平成 30 年度には 20 機関と目標値を設定した。

(8) 認知症サポーター数について、「権利擁護の仕組みづくりを推進します」ということで、認知症について正しく理解し認知症の方を見守る家族の応援団というか、地域の人材を増やすことで、認知症になっても安心して暮らせる地域作りを目指していきたいということで、認知症サポーター数を主な指標に設定し、平成 24 年度累計 3,630 人、平成 28 年度は、4,900 人、平成 30 年度には 5,500 人と毎年度の平均値を基にして目標値を設定した。

会 長 他にはどうか。

- 委員 目標値の設定の仕方で質問だが、他は受講者数等となっているのに対し(1)は開催回数でレベルが違うのは何故か。
- 事務局 事務局としては、開催回数と受講者数とレベルが違うという認識はなかった。事務局としては、個別目標の目指す成果を計る上で最も適切なものという視点で考えている。
- 委員 相応しいかどうかとなると感覚的な話になるのでそこは置いておいて、開催回数と1回に何人受講するかは違うので、必ずしも開催回数を増やしたから受講者数が増えたとはいえない。
- 事務局 確かに開催回数が増えても受講者数が伸びていない場合もあるので、開催回数が良いのか受講者数が良いのか、もう一度担当課と協議をして相応しい指標を設定したい。
- 委員 基本的な事だが、福祉計画なので、個別目標1の「福祉について考える人が増えている」という目指す成果の指標として(1)や(2)があるが、そうではなく、子ども達への福祉教育等、もっと目標を広げた中で書いた方がよいのではないか。基本目標2も「福祉活動をする人が増え、団体がいきいきと活動している」という目指す成果に対し、「介護予防サポーター」「こころサポーター」「ファミリーサポートセンター」を主な指標にあげているが、そうではなく、地域のボランティアの人達が福祉に大勢参加してもらえるようなことをするのが福祉の推進計画だと思う。主な指標だからスケールの小さい事ではなく、もっと人を育てるにはどうしたらよいかというようなものを載せるのが推進計画だと思う。
- 事務局 もう少し広い視点から個別目標1についての目標設定をしたらどうかということに関して、この地域福祉計画というのは、基本的にはこども部と健康福祉部を守備範囲とする計画で、その守備範囲を広げることで、事業実施の推進力が弱まらないように守備範囲をなるべく狭くし、その中で成果をあげていきたいと考えている。
- 従って個別目標1に関して、教育委員会の様々な事業も関連してくるが、事業として密接な関連があるところの掲載に止めている。2つ目のボランティアに関しては、素案の中では19～20頁に主な取組で挙げている。主な取組の○の1つ目の取組例で「大和市社会福祉協議会の支援」等、また○の2つ目の「ファミリーサポートセンターやボランティアセンターの支援を通じて支援者と支援を受けたい人がつながる仕組みづくり」等に関して、もう少し相応しい指標があるのではないかと指摘をいただいたが、現在、策定しているのは行政計画で行政が策定し推進していく性質のものなので、行政内部で推進できる指標設定になっている。
- 事務局 少し補足をすると、「守備範囲を狭めている」という表現は誤解がある。地域福祉に携わっているのは我々健康福祉部が担当になっているので、そこを中心に捉えていると理解していただきたい。その目標をどれだけ達成できたかという指標については、取り組み全体を表す指標設定は難しく、その中で端的に全体の進み具合がわかるものはないかと、無い知恵を絞って検討してきたのだが、ご指摘のように少し違うのではないかと正直感じている。今、いただいた意見も踏まえ、さらにボランティアの方の人数等、取り入れる事はできないか等、更に検討してみたい。
- 会長 成果指標の設定は難しい。行政計画なので、できるだけ行政施策の中から数値的なものをひっぱりだせるもので設定をしていると思うがなかなか難しい。
- 委員 (3)から(5)について、「考える人が増えている」という指標に対してであって「いきいきと活動している」ではないと思う。「活動している」というのは、実際に行動していることになる

ので、(1)から(5)の指標は全部、個別目標1に含まれる指標になるのではないか。

委員 「いきいきと活動している」というのは数値に表すのが難しく、ストレートな指標を求めても出てこない。数値がいらないのかというと、事務局の方々は自分たちを縛っているわけで、これだけやらないとだめだと達成したものを評価されるので、無いよりはあった方がよいが、それでも合わないものはしかたないので、例えば「地域で活動している人が増えている」等、数値的なものを出すには、予算はかかるがアンケートをとるしかなくなるので、そこはあまり突きつめなくてよいと思う。

委員 「いきいきと活動している」というところで、ファミリーサポートセンターは、支援会員になっていると思う。サービスを提供するところとしてファミリーサポートセンターは働き手を担っている人が増えているということで、十分ではないかもしれないが、いきいきと活動しているという成果を計るのに際して(5)は妥当だと思う。そういう視点は大事だと思っていて、目指す成果が個別目標に対して指標の数値が増えているという問題ではなく、指標の内容は整合性をとる必要があると思う。例えば、個別目標3「気軽に集える居場所や社会参加の場をつくります」とあるが、主な指標の(6)も(7)も社会参加の場ではない。例えば(6)「つどいの広場の1ヶ所1ヶ月あたりの平均利用者数」は利用する人の数だから、社会参加の場ではない。実際、ここでサービスを提供しているのは指定管理者だから純粋にここでいっている市民ではない。(7)「子育て応援ガイド配架箇所数」に関しては、置く場所を増やすだけなので、これは、せめて整合性を取るためにも、居場所と社会参加のひとつずつくらいは入れるべきだと思う。こども部と健康福祉部とそれぞれ一箇所ずつ担当の課を出したかったのかと思ったが、ここは精査する必要があると感じる。先程の「数で計るものには限界があるので、ここで議論してもしょうがない」というご意見に私も同意するところだが、せめて、個別目標・成果・指標について、市民の目から見て整合性が取れているかみて欲しい。

個別目標3(6)「つどいの広場の1ヶ所1ヶ月あたりの平均利用者数」を何故ここに載せたのかの説明が飛んだが、私は、つどいの広場事業を2ヶ所、柳橋も入れると3ヶ所やっていて注目していた。つどいの広場の数を増やして人数を増やした方が良いのであり、今、ただでさえ手狭なところにこれ以上利用者数の増加はどうかと思う。おおよそ6年間で9%しか増えない指標も問題があると思うが、つどいの広場の事業数を増やすというのならまだわかるが、少し検討していただければと思う。

事務局 了解しました。

会長 基本目標2の個別目標7「包括的で継続的な支援の体制を整えます」は、要保護児童の問題よりも地域包括ケアの側面で取り上げた方がよいと思う。

個別目標8も生活保護の部分だから、今後は、生活保護受給世帯の就労支援よりも生活困窮者自立支援法による就労支援はどんどん進むと思うので、逆に指標目標にしても下がっていくだけでだめだと思う。こういうものではなく、地域密着型介護サービスの部分の何らかの伸び等で考えていった方がよいのではないか。

個別目標(9)はかなり悩まれたのではないかと思うが、認知症サポーターの数で見るとしているが、個別目標9のところには認知症サポーターの話は出てきていないし、日常生活自立支援事業の利用者の伸びといってもこれは社協がやっているもので、行政計画で出す数字目標として

は少し違うところになるし、成年後見人制度が伸びれば良いか悪いかでは判断がつかないし、ここは確かにむずかしい。

むしろ、社協で来年度から法人後見をやるのなら、法人後見者数は、受け皿が無い人達を支援しているということに繋がるし、当然、市も何らかの補助をするだろうから、その辺で見た方がよいかも。ただ、実際に家庭裁判所から社協にどれだけ受任依頼がくるかによる。

委員 今、社協として考えているのは、来年度から実施しようとしているので、実績を踏まえて色々な面で行政にお願いしようと思っている。

会長 それが盛り込めれば、市長申し立ての形では、後見人が報酬をもらえないということだから、当然、社協にくる。市民後見人の育成はまだしていないので、もし、来年度取り組むのであれば、そのニーズ、いわゆる研修参加者数等を入れても良い。

委員 全部に必ず目標値を入れなくてはいけないのか。数値化しやすいものを選んで入れるのもよいが、数値化できなくても正しい指標が入っていればよいのではないのか。

会長 今のご意見を踏まえて参考にしたらどうか。他に無ければ、次に進み、議題3 答申案について事務局から説明をお願いします。

(3) 答申案について

事務局 (資料3 説明) …大和市地域福祉計画素案について(答申) (詳細省略)

事務局 大和市地域福祉計画素案について答申ということで、社会福祉審議会会長から大和市長に対して答申としてご意見をいただくわけで、それについて事務局で作ったものである。

附帯意見は、5 提案を予定しており、こちらの意見を参考にさせていただきながら前回議論いただいた素案から計画の策定作業を進めていきたいと思っている。

会長 だいたい先ほどあった論議はここに集約されているので、それに基づき素案を修正して本計画としていくということである。いかがでしょう。

事務局 委員の皆様から (3) 答申案について意見がないようなら、附帯意見3にある資料2の指標の設定でたくさんのご意見をいただいたので、相応しい言葉遣いに改めるように会長と相談させていただき答申としてまとめていきたい。

会長 皆様方からお任せいただければ、事務局と私で最終決定をしていく。
では、今後のスケジュールについて事務局、お願いします。

3. その他

(1) 今後のスケジュールについて

・第4期地域福祉計画の今後の作業について

事務局 素案という形で前回の審議会の中でも議論いただき、その素案を本日の審議を基にして、市民にわかりやすい言葉遣いや内容について相応しいものにする策定作業を進める。

最終的にはダイジェスト版として10 頁程度のもの、100 頁程度の本編を策定していきたい。

それらについては、策定出来しだい、委員の皆様へ送付させていただく。

・審議会のスケジュールについて

事務局 社会福祉審議会は、今年度について、今回の第7回が最後になる。皆様方においては、任期が

5月31日までなので、新年度になったら改めて改選のお願いをさせていただくのでよろしくお願い致します。

事務局 最後にお礼を一言述べさせていただきたい。今年の5月31日の第1回の審議会から今日まで7回にわたりご審議いただき、長い間ありがとうございました。おかげさまでなんとか年度内に策定できることになるかと思えます。皆様の任期は5月31日で終わるが、引き続きご依頼したいと考えているので、この計画の進捗管理や来年度以降、その都度修正をかけていきたい。長期にわたり、大変ありがとうございました。

4. 閉会

会長 それではこれで、本日の会議は終了させていただく。最後に会長代理に閉会のご挨拶をお願いする。

会長代理 今日は皆さんご苦勞様でした。8月より毎月集まっていたいただき意見を出していただき、素案が出来てよかったと思う。後はこれに肉が付いてどのような形になるか楽しみである。ありがとうございました。

一同 ありがとうございました。

以上